

2019 年度支部活動【北陸支部】開催報告

主催：公益社団法人日本語教育学会・富山大学

開催日：2019 年 8 月 24 日（土）

会場：富山大学 黒田講堂

参加者：40 名（会員 25 名・一般 15 名）



2019 年度北陸支部活動が、8 月 24 日（土）に富山大学黒田講堂で開催されました。今回は、講師として原田三千代氏（元 三重大学）、田中信之氏（富山大学）をお招きし、「対話的評価活動を取り入れたクラス活動を考える-内省型ルーブリックの作成を通して-」というテーマで、講演とワークショップを行いました。富山、石川、福井の北陸 3 県の他、関東、関西、東海や、遠くはロシアから、日本語教師や日本語教育を学ぶ大学院生、また、留学生など、様々な形で日本語教育に関わっている方、興味をお持ちの方が集まりました。

前半の講演では、対話的評価活動の理論的背景や、評価活動で用いる内省型ルーブリック（内省型ルーブリック：空欄のマトリックスの記述欄に、学習者自身が内省を自由に書き込めるようにした内省記述表）の内容や記述方法、そして評価活動を取り入れたクラス活動の実践研究の概要が紹介されました。後半のワークショップでは、まず参加者が 4～5 人のグループになってピア・リーディングを行いました。次に、このクラス活動に即した学習目標をグループで立て、内省型ルーブリックの作成を行いました。これらを行うことにより、評価を学習過程に即したクラス活動にし、学習者自身が評価の視点を形成するという体験をしました。その内容をポスターにして発表し、講師のコメントを得ました。その後、全体で今回のワークショップをふり返り、各参加者の意見を共有しました。

講演・ワークショップを通して終始、対話的評価活動を従来の評価観で見た場合の疑問点や、内省型ルーブリックの観点の出し方、内省の記述方法に関する議論がなされるなど、活発なやり取りが行われ、非常に有意義な会になりました。

今回の講演・ワークショップは、参加者のピア活動とふり返りが効果的にくり返され、非常に中身の濃い達成感のある内容になったのではないかと感じています。事後のアンケートの回答を見ても、「ワークショップは、とても考えられていて充実していた。経験と裏付けができてルーブリックに少し自信がもてた」というものや「ワークショップの実践があることで理解が深まった」など、肯定的なコメントが多くありました。さらに「また第 2 回をやって欲しい」と、続編を期待する声も上がっていました。

今回の支部活動は夏休み中の開催ということもあり、県外などからも多くの参加者がありました。日頃、あまり評価活動について意見交換することのない参加者同士がそれぞれの経験や講演・ワークショップを通して得たことを共有できる、とてもよい機会になったと感じています。今後も、様々な背景を持つ日本語教育関係者が共に学ぶことができるような会を開催することができればと思っています。

（報告者：支部活動委員 中河和子）